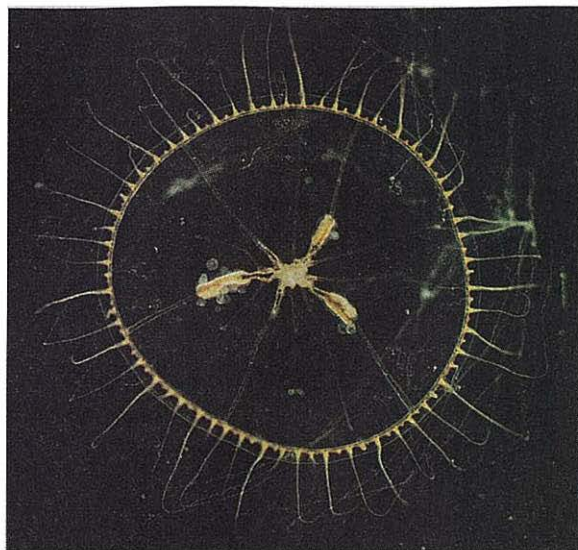




久保田 信

番外編21

キタヒラクラゲ



石川県能登島産のキタヒラクラゲ
(池口新一郎氏提供)

放射管に沿って生殖巣が形成されるヒドロクラゲの仲間
は、決まって傘の縁に感覚器
を持つ。しかし、キタヒラク
ラゲはまったく持ち合わせて

キタヒラクラゲは何と言っ
ても生殖巣のできる放射管の
数が一定でないといった変わ
った特徴がある。画像の個体
は8本の傘の縁まで伸びてい
るものと、縁まで伸びないで
途中で止まっている短い放射
管が複数本ある。3本の放射

おらず、実に不思議なクラゲ
である。
感覚器がない点からはキタ
ヒラクラゲは花クラゲの仲間
なのだが、今のところ、軟
(やわ)クラゲ類に分類され
ている。

管には丸い卵がはっきり見え
る卵巣ができており、これで
成熟していることが分かる。
傘の直径が7ミリの小型
クラゲなので、栄養輸送の放
射管がたくさんある必要はま
ったくない。なぜ多数になっ
ていくのかは謎であるが、そ
のヒントになる観察がある。
それは、のどま水族館の池
口新一郎氏によるもので、シ
ヤム双生児のようになってい
る個体も複数見られたそうで
ある。しかし、それらは分裂
はしなかったそうである。

傘の縁には多数の触手が生
えており、触手の根元の膨ら
みには眼点がある。光の明暗
を感覚できる仕組みである。
しかし、傘の縁に軟クラゲ類
にしか見られない糸状体は一
切ない。

なお、ポリプは外国産のも
ので少し分かれている。北海
道や能登半島のほかに瀬戸内
海でも採取されているので田
辺湾でも出現するのかもしれ
ない。

(京都大学准教授)